第十二條 長官以上及參謀士官傳令士官并ニ各兵隊附士官ノ乘馬飼料ハ增料トシテ一日金拾壱銭壱厘ヲ給シ又官ニテ之ヲ飼フ者ハ定額飼料ノ内一日金貳拾六銭六厘ヲ返納セシムヘシ

開拓使

第九百四拾号

長官

三等出仕

書記官

十四年六月九日

賞勲局　勲部録課

前田信厚贈位ノ件合議

華族從五位松前脩廣祖先信廣

去者ノ功ヲ以贈位ノ儀都書記官ヨリ相伺

相當ノ儀徳大寺宮内卿上申ノ趣ニ候當使意見

以下同ノ数書ニ紅葉島國福山ヘ祖宇
構造ノ仮ハ旅宮使来タル聞届ニ三不ニ
依特ニ信廣北地ニ切腹ニ上申ノ通ニ
為追賞有書ノ位階ニ相成ル
進達ノ律ニ相成ル
軍律ニ相成可ニ此段上ニ申ス也

明治十四年六月十五日　開拓長官黒田清隆

太政大臣三條實美殿

内閣書記官局　第二二号

別紙宮内省上申華族従五位松前修廣
祖先武田信廣ヘ贈位ノ儀其使意見可
被申出此旨及照會候也

明治十四年六月七日　太政大臣三條實美

開拓長官黒田清隆殿

公文録

武蔵国用途上申華族往来信拵帳
修廣社先度因信廣ノ贈位ノ儀伺度
意見可致申出旨及照会事
明治四年六月七日　太政官

開拓長官黒田清隆殿

開拓使

華族松方氏祖先武田信廣

信階之始祖

華族松方氏祖先武田信廣

長篠年間戦死

九之子八幡太郎

千里嶋侍従之村

協力復国

右信廣事績

抜抄之通

之際信廣流

夫族之

信階之始祖

華族松方氏祖先武田信廣

長篠年間戦死

九之子八幡太郎義家之血統

千里嶋侍従信廣源頼朝公の弟

協力復国

右信廣事績

抜抄之通

之際信廣流

夫族之

[illegible]

其功績有勲者右遺勲ヲ以追懷此段表彰
之信陽山縣為重成度旨地上申候也
明治四年六月七日　高柳彦寺實則
大政大臣三條實美殿

開拓使

## 松前家記

松前氏、本武田氏、源義光ニ出ツ、義光ノ曾孫ヲ信義ト曰フ、武田ヲ氏トス、信義十世ノ孫ヲ信繁ト曰フ、嘉慶元年、若狭ヲ領ス、三子アリ、信榮ト曰ヒ、信賢ト曰ヒ、国信ト曰フ、兄弟相継テ守護タリ、信賢ノ子ヲ信廣ト曰フ、是松前氏第一世ノ祖トス、蓋シ信賢ヨリ、先世ノ事歴ニ於ル、諸史ニ詳カナルヲ以テ之ヲ略ス、

### 一世信廣

信廣、小字ハ彦太郎、信賢ノ第一子、母ハ姓氏ヲ闕ク、永享三年、二月若狭ノ後瀬山城ニ生ル、長シテ若狭守ト称ス、天資豪爽、躰貌魁岸、膂力倫ヲ絶チ、能ク強弓ヲ挽ク、郡下屬望スル者多シ、初メ信賢子ナシ、第

弟国信ヲ以テ嗣トス、既ニシテ信賢信廣ヲウミ国信モ亦信親ヲ生ム、信賢乃チ信廣ヲシテ国信ノ養子タラシム、信廣其材武ニ誇リ、屢暴行アリ、深ク信賢国信ニ忌ル、宝徳三年、国信遂ニ国ヲ信親ニ傳エ、且ツ變ヲ生ンコトヲ慮ハカリ、信廣ニ迫ツテ、自盡セシメント欲ス、賓ニ是歳三月廿八日ナリ、長臣佐々木繁綱、三郎兵衛尉ト称ス 工藤祐長、九郎左衛門尉ト称ス 同僚ト相謀リ、以テ其期ヲ延ヘ、即夜繁綱祐長、及ヒ従士三人、其姓名ヲ失ス一説ニ今井某鬼塲袋某 潛カニ信廣従士中ニアリト以テ後考ニ備フ ヲ誘フテ、関東ニ出奔シ、足利氏ニ投ス、享徳元年、信廣、又陸奥ノ田名部南部ノ地名ニ来ツテ、蠣崎ニ據ル、因テ蛎崎ヲ氏トス、三年八月廿八日、信廣、伊駒政季、安東太ト称ス津軽十三湊ノ豪族潮流重季ノ孫 相原政亂、周防守ト称ス河野政通、加賀守ト称スト大畑田名部港名ヨリ航シテ松前ニ抵ル、蛎崎ノ土豪、酒井喜内、酒井七内、石黒喜多右エ門、布施新六、詫呂市兵衛、細界品右エ門、某氏徳兵エ等従フ、是ヨリサキ武田信繁ノ族、蛎崎季繁、修理大夫ト称ス季繁モ亦蛎崎ニ嵩スト云フ 衆アツテ松前ニ逃レ、伊駒政季ノ女婿トナリ、花沢城上国ノ地名ノヲ守ル、故ニ政季々繁ヲ勸メ、信廣ヲ以テ将トシ、季繁之カ副タリ、十月厚谷重政、右近将監ト称ス武田氏ノ重臣厚谷ノ城主タリ 信廣ヲ慕フテ岩狄ヨリ来ル、乃チ比石ノ城主トス、康正二年、春東部ノ一夷児鍛冶村ニ来リ、冶工ニ托シテ、匕首ヲ造ラシム、其利鈍ヲ争フ、冶工怒ツテ匕首ヲ以テ夷児ヲ殺ス、是ニ由テ蝦夷蜂起、大ニ掠殺ヲナシ、東牟川ヨリ、西與市ニ至リ、悉ク其害ヲ被ムル、残民皆上国松前ニ萃ル、

大信廣ノ蛎崎ニ據ル、蕞爾タル一小邑主ナリ、其花沢ヲ守ルモ、亦寄寓ノ一客将ニ過サルノミ、而シテ狡夷ヲ膺懲シ渡島ヲ統轄シ、其業ヲ創メ、其国ヲ建ルハ、實ニ長禄元年歳次丁丑ニ在リ、故ニ是歳ヲ掲テ以テ、日藩歴年ノ首トナストス、

後花園天皇

長禄元年丁丑、信廣花沢城ニ在リ

五月十五日、東部ノ酋長、胡奢麻尹父子、大擧入寇、勢益猖獗ス、此時渡島南界ノ諸豪族志濃里ノ城主小林良景、（太郎左エ門尉ト称ス）宇須岸ノ城主河野政通、（加賀守ト称ス）中野ノ城主伝藤季則、（三郎左エ門尉ト称ス）脇本ノ城主南條季継、（治部少輔ト称ス）穂内ノ城主荒土季直、（甲斐守ト称ス）覃部ノ城主今泉季友、（刑部少輔ト称ス）大館ノ城主下国季直、（山城守ト称ス）相原政胤、補保田ノ城主近藤季常、（四郎左エ門尉ト称ス）原口ノ城主岡部季澄、（六郎左エ門尉ト称ス）原谷重政等、防戦力竭キ、咸城ヲ弃テ亡ク、茂別家政、（式部大輔ト称ス）下国ノ城ヲ守リ、信廣花沢ノ城ヲ守リ、勢尚未タ屈セス、是ニ於テ諸豪會議、信廣ヲ推シテ主帥トス、信廣乃チ残兵ヲ糾シテ東発ス、六月廿日、大ニ七重濱ニ戦フ、衆寡敵セス、我軍幾ント敗レントス、信廣、佯走楊木中ニ匿ル、胡奢麻尹父子追躡ス、信廣、巨箭一発、父子ヲ洞シ、直チニ木中ヨリ跳出、大刀ヲ揮ツテ裨酋数人ヲ斬ル、我兵奮撃大ニ之ニ克ツ、餘衆潰散、諸部震慴ス、茂別家政、花沢ニ来リ、季繁ト會シ、各宝刀ヲ信廣ニ贈ツテ、以テ其戦捷ヲ賀ス、季繁、又伊駒政季ノ女ヲ養フテ、信廣ニ配ス、七月朔、諸豪勸進、信廣、始メテ

国ヲ建ツ、是ヨリ諸豪、皆信廣ニ臣事ス、八月新城ヲ
天王河北ニ築キ、勝山ト名ケ信廣徙ル、
二年戊寅、閏正月二日、滿月出ツ
四月、佐々木繁綱、云藤祐長、ヲ東部ニ遣ハシテ、胡奢
麻尹ノ餘党ヲ勦ス、
五月、犬ニ東西ノ夷酋ヲ會シテ、建国ヲ告諭シ、且ツ
誓辭ヲ徵ス、
三年己卯、宇須岸ノ隨岸寺ヲ松前ニ遷ス、
寛正二年辛巳、六月十二日、假父季繁卒ス、八幡野上国地
名ニ葬ル、七月僧秀圓昆沙門天像ヲ上国洋中ニ獲
ル、堂ヲ建テ之ヲ祭ラシム、
後土御門天皇
應仁元年丁亥、四月、重臣ヲ東西部東ハウス西ハフトロ ニ遣ハ
シテ、民夷ノ区別ヲ定ム、
八月、大風洪水アリ、
二年戊子、三月ヨリ六月ニ至ル、屢大風アリ、
文明元年己丑、夏疫病盛行、且ツ屢大風アリ、秋大飢民
夷多ク死ス、
三年辛卯、六月僧隨芳法源寺ヲ於古支里島ニ建ツ、
五年癸巳、八幡社ヲ城中ニ建ツ、館神社ト号ス
十七年乙巳、蛤蟹島ノ夷酋来リ、銅雀臺毛硯ヲ献ス、
今猶家ニ存ス、
十八年丙午、春松前大館火アリ隨岸寺燒ク、
延德二年庚戌、夏法源寺ヲ松前ニ遷ス、松前山ト号ス、
明應三年甲寅、五月廿日、信廣花沢城ニ卒ス、年六十四、
城西ノ山上ニ葬ル、乃チ其山ヲ、夷王山ト名ク、後世誤ッテ

寅ヲ医ニ作ル

寛文九年、館神社ニ附祭ス、

潜史氏曰、夫渡島ノ地方ニ於ケルヤ、往昔ハ姑ク焉レヲ舎ク、足利氏中世ヨリ、安東氏ニ属スト雖氏、徒ニ其名アツテ、其実アルニ非ス、蚤爾タルモ人、動モスレハ猖獗ヲ擅ニス、而メ未タ嘗膺懲ノ挙アルヲ聞カス、而メ康正長禄ノ際ニ至ツテ、其乱極レリ、於是乎、信廣流寓ノ餘リヲ以テ、将帥ノ撰ニ膺リ、飈拳電撃、風靡草偃、其巨魁ヲ殪シ、其醜類ヲ懐ケ、乃チ創業貽謀遂ニ彼ノ鬼方ヲシテ、我版図ニ帰シ、永ク皇国北顧ノ患ヲ絶ツ所以ノ者、抑其功烈、安陪田村両将軍ニ亜ツト謂フトモ、溢美ニアラサルナリ、